

まちの成り立ち

太古～開村

井の頭池周辺には、約 4,000 年前の縄文人の集落が確認されており、鎌倉時代末期の板碑（供養の石碑）が市内からいくつか出土していることから、古代より引き続き人々が住んでいたと思われます。
江戸時代は、玉川上水、千川上水などができましたが、あたりは畑地ばかりでした。

御殿山通跡

明治～大正（武蔵野町誕生）

明治 22（1889）年、吉祥寺、西窪、関前、境の 4 つの村が合併して武蔵野市のもとである武蔵野村ができました。
大正 12（1923）年の関東大震災後、吉祥寺に成蹊学園の移転や住宅分譲地など急速な発展がみられました。

大正 7 年頃の初荷風景（提供：須田憲昭氏）

昭和

戦後は、交通の便の良さ、都心へのアクセス、自然的環境の良さなど多くの好条件に恵まれた住宅都市として急速な発展を遂げました。
人口は、昭和 25（1950）年から 15 年の間に約 65% 増え、約 13 万人と急激な人口増加が見られました。

昭和 36 年頃の亜細亜大学並びに桜堤団地（提供：亜細亜大学）

現在

現在は、市内を東西に貫通する JR 中央線に沿って、商業が集積する市の玄関である吉祥寺圏、文化・行政のゾーンの中央圏、文教施設と中核病院をもつ武蔵境圏の三域の個性を生かしながら、全体が調和したまちづくりを進めています。

現在の武蔵野市

武蔵野市

生きものマップ

身近な生きものを観察しよう！

生物多様性とは…

あらゆる生物の種類の多さと、それらによって成り立っている生態系が豊かでバランスが保たれている状態を言います。

このマップを参考に、身近な生きものを観察し、自分の暮らしているまちの環境を調べてみませんか！



武蔵野市で見られる生きもの

ほ乳類 3 種類



すんべりした体型で夜間に活動する



家屋の屋根裏等をねぐらとする



地中にトンネルを掘って生息する

3 つの生物多様性

- 種の多様性 地球上には、未知のものも含めると 3,000 万種とも言われる生物が暮らしていて、このように多種の生きものがいること。
- 生態系の多様性 自然林や里山林・人工林などの森林、湿原、河川、サンゴ礁など、地息や気候による固有の自然が多様に分化し、様々な環境があること。
- 遺伝子の多様性 様々な環境に対応するためには、乾燥、暑さ、病気に強いなど、様々な個性をもつ個体が存在する必要があり、個体間や生息する地域によって体の形や行動などの特徴に少しずつ違いがあること。

特徴的なまちの環境

市内には、特徴的な 9 つの環境があります。

樹林環境

屋敷林や社寺林などの樹林がまとまっている環境のことをさします。特に、市内には、ケヤキやクヌギなど自然度の高い二次林が残っています。その他、保存樹林や保存樹木、憩いの森などに指定されている樹林があります。



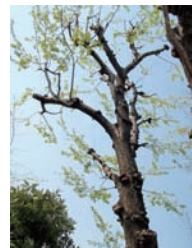
並木環境

街路樹が整備されている環境のことをさします。市内には、高木と植栽帯が一体的に整備されている街路があります。



大木・シンボルツリー

長い年月をかけて生育してきた大木や、まちのシンボルとなっている樹木のことです。



鳥類 10 種類



背中がコバルト色、頬がオレンジ色



平地から山地の雑木林に生息する日本で最も小さなキツツキ



平地から山地の河川とその近くで多く見られる



春先になると台湾やフィリピンなどから渡来する



人家の有る所に生息する



山間部や河川に多く見られる



目の回りが白く輪になっている



目の回りが白く輪になっている



目の回りが白く輪になっている

は虫類 4 種類



日本固有種で平地から低山地の藪や草地、庭などに棲んでいる



成体は茶褐色で、背に黒帯があり、尾に黒褐色の光が見られる



背面は青色がかかった褐色で不明瞭な 4 本の黄褐色の縦帯がある



背面は青色がかかった褐色で不明瞭な 4 本の黄褐色の縦帯がある

両生類 2 種類



平地、丘陵地の湿地、水田などに生息する中型のカエル



両脚は短く太く、歩いて多動するのに対し、大型のカエル

魚貝類 2 種類



平地・丘陵地と平地から山地の湿った場所に生息している



平地部の森林に生息し、樹林の多い公園や庭などでも見られる

昆虫類 9 種類



森林内を好み、開けた場所に出てくることは少ないが、幼虫が木葉を食うことがよく見られる



日当たりのよい裸地や草地の土中に卵を作る



林縁部や腐葉物の堆など半日陰の場所によく見られる



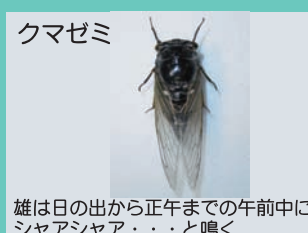
食樹の種類が多いため都会内の公園でも見ることがある



翅は褐色で淡黒褐色の斑がある



翅は褐色で淡黒褐色の斑がある



翅は褐色で淡黒褐色の斑がある



翅は褐色で淡黒褐色の斑がある



翅は褐色で淡黒褐色の斑がある

草本類 17 種類



山地から人家付近の道はたまで広く分布する



山菜としては有名で、春の若芽を山菜名で「たけのこ」という



カラスが食べるツリの意味を持つ赤い果実がある



日当たりのよい道ばたや草地に生え、黄白色の花をつける



根からとった薬効は葛粉になる



黄色い花、濃紅色の果実をつける



細くなって咲く形がミズヒキに似て、花が黄色であるためキンミズヒキと誤られる



強毒・鎮痛作用があり、薬草の主成分と言われる



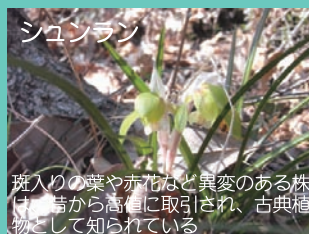
全体が柔かく、傷つけるとやや悪臭がある



紅白の花がまたさらに横向きに咲くため、紅白のミスヒキと誤られる



花茎は長さ 5 ～ 1.5 ㎝で、小さな花を螺旋状につける



茂入りの葉や花など真夏の暑さの体感から高層に咲き、古典植物として知られている



花が 8 重のツリハナシとよく似て、花が小さく、葉も細く花は一直である



日当たりの良い所では花が白く、花が地下にできる根根を食用にする



茎の上部に緑白色の花が横向きに半開きで咲く



淡紫色の小さな花が葉腋に咲き、花が地下にできる根根を食用にする



しっかりと根を張って、容易には引き抜けない

木本類 18 種類



土壌の酸性が強く乾燥地でもよく生え、日当たりが大好き



河川沿いに多く生息する日本固有種



川沿いや道端など湿気の多いところで見られ、実は食用とされる



褐色の軟毛があり、フェルト層の膜、市内では稀に見ることがある



林縁、河原などでよく見られる



明るい林縁に真っ先に侵入してくる先駆樹種



丘陵～山地の沢沿いに多く見られる



雑木林や谷間、川沿いのほとりなどでよく見られる



山野の林縁に多く見られる



果実の形が、しめ縄につくさける、編製のシヤの形に似ている



クヌギと同様に萌芽性強いので、新芽用として多く植えられた



コナラと同様に萌芽性強いので、新芽用として多く植えられた



明るい所に真っ先に生えてくる先駆樹種



林縁などによくみられる先駆樹種



材が長く、同名の魚同様役に立たない



葉は強い臭気がある



丘陵～山地に見られる



新芽は山菜として食べるが、多数生息



森林内を好み、開けた場所に出てくることは少ないが、幼虫が木葉を食うことがよく見られる



日当たりのよい裸地や草地の土中に卵を作る



林縁部や腐葉物の堆など半日陰の場所によく見られる



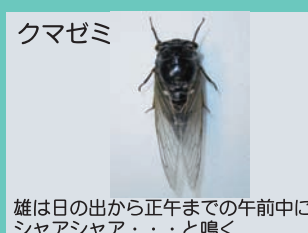
食樹の種類が多いため都会内の公園でも見ることがある



翅は褐色で淡黒褐色の斑がある



翅は褐色で淡黒褐色の斑がある



翅は褐色で淡黒褐色の斑がある



翅は褐色で淡黒褐色の斑がある



翅は褐色で淡黒褐色の斑がある

* 写真は、NPO 法人武蔵野自然塾（梶田氏、小町氏、田中氏、山崎氏）の提供です。（カマズミの実、オナガを除く）